

《履修上の留意事項》公衆衛生学・疫学という科目の性質上、原則として最も新しい資料を用いて講義を進める。

《担当者名》西 基 motoi@hoku-iryō-u.ac.jp

【概要】

この科目は後期の「疫学」と前編・後編をなすもので、公衆衛生学・疫学の幅広い知識を習得する。

【学修目標】

わが国の感染症・学校保健・母子保健・人口統計・国際保健に関し、公衆衛生学的・疫学的視点から説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	感染症(1)	感染症の疫学・感染症法	西
2	感染症(2)	感染症対策	西
3	感染症(3)	後天性免疫不全症候群・結核・予防接種	西
4	感染症(4)	食中毒	西
5	学校保健	学校保健と学校保健安全法	西
6	母子保健	母子保健法・母子保健施策	西
7	人口統計(1)	人口静態統計（国勢調査）	西
8	人口統計(2)	人口動態統計（出生・死亡）	西
9	人口統計(3)	人口動態統計（乳児死亡・新生児死亡・妊産婦死亡・死産）	西
10	人口統計(4)	主要死因の解説	西
11	人口統計(5)	悪性新生物の罹患・死亡	西
12	人口統計(6)	部位別の悪性新生物とその危険因子	西
13	人口統計(7)	心疾患・脳血管疾患とその危険因子	西
14	人口統計(8)	自殺・他殺・事故による死亡	西
15	国際保健	アルマ・アタ宣言、オタワ憲章、国際保健機関(WHO)、JICA	西

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

原則として定期試験100%だが、提出物などを加味する場合がある。

【教科書】

『New Simple Step 公衆衛生』総合医学社

『コ・メディカル用語事典』第7版 海馬書房(1年次購入済)

【備考】

資料としてプリントを配付する。

看護師国家試験などの問題の演習を適宜行い、それまでの講義内容のフィードバックを行う。

【学修の準備】

予習として教科書の該当部分に目を通すことが望ましい（10分程度で可）。復習は、講義のあった日には必ずすること。何らかの事情で当日できなかった場合には、その週末にはすること。その際、教科書・事典・プリントには最低20分はかけてすべて目を通すこと。

**【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】**

DP2,3

**【実務経験】**

日本公衆衛生学会認定公衆衛生専門家 .

**【実務経験を活かした教育内容】**

日本公衆衛生学会認定専門家としての実務経験を生かし、感染症・学校保健・母子保健・人口統計・国際保健に関し、過去から最新に渡る情報を提供して講義を進める .